



りんくう総合医療センター「リウマチセンター」

問合先 りんくう総合医療センター 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)
ホームページ (<http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/>)

関節リウマチとは 手足をはじめとする全身の関節に痛みと腫れを引き起こす疾患です。関節がこわばって動かしにくい、動かしていると徐々にこわばり感はやわらく、という症状がみられ、「朝のこわばり」とよばれます。関節リウマチは慢性の経過をとり、進行すれば関節の変形をきたし日常生活が不自由になります。

原因は明らかになっていませんが、免疫異常により関節の破壊が起こることが知られています。関節リウマチにかかる人の割合は200人に1人です。日本での患者数は70万人であり、そのうち80%は女性です。発病時期の年齢は主に30歳代から50歳代です。

リウマチセンター 当院ではリウマチセンターを立ち上げ、膠原病内科医師と整形外科医師の協力により総合的に関節リウマチの診療にあたります。関節の痛みを伴う病気は関節リウマチ以外にも非常に多くあります。かかりつけ医やお近くの医療機関を受診し関節リウマチが疑われる場合は、医療機関を通じて当院の地域医療連携室に連絡をいただければ、スムーズに予約がとれます。

治療 現在のところ、根治療法はありませんが、薬物療法により関節リウマチをコントロールし、関節変形の進行を抑制することが可能です。これまで関節リウマチの治療には①非ステロイド性抗炎症薬(消炎鎮痛薬)②副腎皮質ステロイド薬(ステロイド)③抗リウマチ薬・免疫抑制剤が使用されてきました。生物学的製剤の出現により関節リウマチの治療は劇的な進歩を遂げています。当リウマチセンターにおいても上記①～③の薬剤および生物学的製剤による治療を行っております。

生物学的製剤 生物学的製剤は注射薬であり、点滴または皮下注射により投与されます。従来の薬物治療と比べて非常に良い治療効果は期待できますが、副作用やリスクを考慮する必要があり、すべての患者さんに投与できるわけではありません。生物学的製剤を開始するかどうかはそれぞれの患者さんの状態を考慮の上決定します。現在のところ右の表にある生物学的製剤が使用可能です。

一般名	商品名
インフリキシマブ	レミケード
エタネルセプト	エンブレル
アダリムマブ	ヒュミラ
ゴリムマブ	シンボニー
トシリズマブ	アクテムラ
アバタセプト	オレンシア

職員募集 (りんくう総合医療センター・府立泉州救命救急センター)

募集職種 助産師、看護師

受験資格 昭和28年4月2日以降に生まれ、看護師または助産師免許を有し(来春取得見込み含む)、夜間勤務が可能な人

採用予定日 来年4月1日 **試験日** 11月11日(日)

申込・問合先 11月7日(水)までにりんくう総合医療センター総務課(☎469-3111 Fax469-7929)へ

※募集要項はホームページ(http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/04_boshu/04_index.html)からダウンロードもできます。また、随時の採用も行っています。

関節リウマチに興味のある看護師を募集中です。詳しくは問い合わせください。